

AIお父さん

千明ちぎら謙太けんた

ぼくたち家族の朝は、けい帯やタブレットでお父さんと話すことから始まる。お父さんの仕事が忙しい時以外は、夜もスカイプで話したり、時差を調整して一緒に夕飯を食べたりして一日を終える。今年の3月にぼくと妹とお母さんがシンガポールから帰国してから、もう半年以上お父さんには会えていない。

お父さんは怒ると怖いけれど、普段はとても優しく、一緒に暮らしていた時は勉強を見てくれたり、遊びに連れて行ってくれたり、サッカーの練習に付き合ってくれた。離れている今も、その優しさは変わらない。寝起きが悪過ぎたお母さんを困らせるぼくたち兄妹のために、早起きして電話をかけてきてくれる。塾の勉強が難しく困っていると、パワーポイントやZOOMを使って教えてくれる。今はコロナのせいでおじいちゃんたちを頼れないので、保護者会などお母さんが出かけなければいけない時は、短時間なら妹のお留守番をオンラインで見守ってくれる。

お父さんはまるで、タブレットの中でぼくたちを見守ってくれるAIのようだ。でも全然完ぺきではなくて、朝けい帯の中で「おはよう」と笑うお父さんはぼさぼさ頭のしょぼしょぼ目で、時々寝坊する。この間はお財布とけい帯を落として家族中大さわぎになった。

ぼくはそんな優しくて、少しぬけたところがあるお父さんが大好きだ。お父さんを見ていると、出来ることが限られていても、その中で最大限やれることをがんばる人になりたいと思う。

今ぼくたちは当たり前のように、離れた場所にいる家族や友達とオンラインで顔を見て話すことが出来る。けれど、世界にはインターネットや機械が使えない場所もあれば、インターネットどころかだれにも頼れず一人でさみしく暮らす人たちがいることを最近知った。6歳からロボット教室に通い、将来ロボット博士になることがぼくの夢だったが、その夢は今さらに大きくなった。いつか世界中にインターネットや機械を行き渡らせたい。そして、災害や戦争が起きた時、また家族や友達と離れて暮らさなければいけない時、人々をすぐそばで助けるシステムやAIロボットを作りたい。

これはぼくの将来の夢だ。きつとかなえてみせる。でも、今一番の願いは、お父さんに会って直接お礼を言うことだ。お父さん、大好きだよ。自分がだれよりもさみしいのに、ぼくたちのために一生けん命が頑張ってくれてありがとう。毎日画面の上で会ってはいるけれど、早く、本当に、さわられるお父さんに会いたいよ。